

平成 24 年度 一級建築士設計製図の試験 課題の分析

平成 24 年 一級建築士設計製図試験 課題

地域図書館(段床形式の小ホールのある施設である。)

要求図書

- 1階平面図兼配置図(縮尺1/200)
- 2階平面図(縮尺1/200)
- 断面図(縮尺1/200)
- 2階梁伏図(縮尺1/200)
- 面積表
- 計画の要点等

(注)要求図面に、図示又は記入するもの

- ・主要寸法、室名、床面積
- ・構造種別、架構形式等に応じて必要となる構造要素
- ・柱、梁等の断面寸法
- ・設備スペース、設備シャフトの位置
- ・避難階段に至る歩行距離・歩行経路 等

今年度の『地域図書館』は、平成9年「緑豊かな吹抜け空間のある地域図書館」以来 15 年ぶりの出題です。

過去の出題傾向から、2階建、延べ面積 2,000 m²～3,000 m²の出題が考えられ、一昨年(平成 22 年)の課題『小都市に建つ美術館』と機能的には類似した施設と考えることができます。

『地域図書館』は、建築計画上、閲覧室や各種メディアコーナーなどを中心とした「利用者ゾーン」と、管理部分、書庫及び調査研究部分、ブックモビル部分などの「管理・サービスゾーン」が明確にゾーニングされ、アプローチにおいても利用者用、サービス用、搬出入用を明確に区別しなければなりません。

また、それぞれのアプローチ計画には、高齢者用駐車スペース、サービス用駐車スペースや搬出入又はブックモビルの駐車スペース又は車庫の計画が付帯することになります。

今課題では、図書館機能の多様化が求められる中、「段床形式の小ホール」という地域の住民を対象とした集会部門が出題されることから、床の高低差の処理が最も重要な計画となります。

地域図書館部門との融合と分離を目的としたアメニティ空間(過去はアトリウム空間)やソーシャルミックスを目的とした研修・教育機能(平成9年は園芸教室等のアトリウム形式の温室)の出題も考えられます。この場合、利用時間の違いからの利用者部分の管理上のゾーニングが必要です。

構造計画では、段床形式の小ホールは、長スパンでの大空間の計画が必要となり、構造種別やスパンの選択、耐震計画、さらに段差の処理における梁の計画など、構造的知識が問われます。

設備計画では、図書館部門と小ホールの空調のゾーニング計画、それに伴う機械室や設備スペースの計画が建築物全体の計画に大きく影響します。高い省エネルギー性や環境負荷低減性に対する配慮が求められることから、閲覧室や小ホールの照明計画や排煙計画、消火設備計画は法的な制限も含めて、しっかり確認しておく必要があります。

最後に、『要点記述』については、計画と記述に相違があれば、優れた計画であっても、評価は大きなマイナスとなりますので、構造計画・設備計画・空間計画における根拠を明確にした学習を心がけておきましょう。